

[解答例]

英語〔基礎評価型〕

設問		解答例	
①	I	①	3
		②	4
		③	4
		④	4
		⑤	2
		⑥	4
		⑦	2
		⑧	3
		⑨	2
		⑩	2
	II	⑪	3
		⑫	4
		⑬	3
		⑭	2
		⑮	2
	III	⑯	4
		⑰	5
		⑱	1
		⑲	7
		⑳	4
		㉑	6
		㉒	3
		㉓	1
		㉔	3
		㉕	4
②	I	①	2
		②	1
		③	3
		④	4
		⑤	4
		⑥	4
		⑦	3
		⑧	3
		⑨	4
		⑩	3
	II	⑪	3
		⑫	4
		⑬	3
		⑭	1
		⑮	2
	III	⑯	1
		⑰	6
		⑱	8
		⑲	6
		⑳	5
		㉑	2
		㉒	6
		㉓	3
		㉔	1
		㉕	8

英語〔総合評価型〕

設問		解答例	
①	I	①	3
		②	3
		③	4
		④	2
		⑤	3
		⑥	1
		⑦	1
		⑧	1
		⑨	2
		⑩	4
	II	⑪	4
		⑫	1
		⑬	4
		⑭	1
		⑮	1
	III	⑯	5
		⑰	8
		⑱	4
		⑲	3
		⑳	3
		㉑	5
		㉒	3
		㉓	7
		㉔	6
		㉕	8
②	I	①	4
		②	4
		③	2
		④	4
		⑤	2
		⑥	2
		⑦	3
		⑧	4
		⑨	1
		⑩	1
	II	⑪	1
		⑫	2
		⑬	4
		⑭	3
		⑮	4
	III	⑯	3
		⑰	1
		⑱	8
		⑲	5
		⑳	3
		㉑	6
		㉒	3
		㉓	7
		㉔	4
		㉕	5

数学〔基礎評価型〕

設問		解答例	
①	第1問	ア	3
		イ	2
		ウエ	16
		オカ	92
		キク	34
	第2問	ケ	2
		コ	3
		サ	2
		シ	2
		ス	3
		セソ	-4
		タ	6
		チ	3
		ツ	4
		テ	3
		ト	2
		ナ	7
		ニ	4
	第3問	ヌ	1
		ネ	2
		ノ	1
		ハ	2
		ヒ	6
		フ	0
		ヘホあ	120
		いう	15
		え	4
		おか	16
		き	4
		くけ	16
		こ	4
		さし	44
		す	4
		せ	3
		そ	2
		た	4
		ち	3
		つ	2
②	第1問	アイ	-3
		ウ	2
		エ	4
		オ	0
		カ	3
		キ	2
		ク	2
		ケ	9
		コサ	14
		シスセ	108
	第2問	ソタ	10
		チ	1
		ツ	3
		テ	1
		ト	3
		ナ	5
		ニ	8
		ヌ	5
		ネ	2
		ノ	1
	第3問	ハ	5
		ヒ	1
		フ	2
		ヘ	7
		ホ	5
		あ	4
		いう	10
		え	5
		お	2
		か	6
		き	2
		く	5
		けこ	15
		さ	2
		し	5
		す	1
		せ	2

数学〔総合評価型〕

設問		解答例	
①	第1問	ア	1
		イ	3
		ウ	3
		エ	4
		オ	8
		カキ	81
		ク	1
		ケ	2
		コサシ	175
	第2問	ス	5
		セ	6
		ソタ	11
		チ	6
		ツ	2
		テト	11
		ナ	2
		ニヌ	33
		ネ	1
		ノ	2
	第3問	ハヒ	69
		フヘ	11
		ホあ	20
		い	2
		う	3
		え	0
		お	0
		か	2
		き	0
		く	6
		け	7
		こさ	-4
		し	7
		す	0
		せ	1
		そ	2
		た	3
		ち	4
		つ	7
		て	6
②	第1問	アイ	-2
		ウ	4
		エ	5
		オ	1
		カ	7
		キ	3
		ク	1
		ケコサ	108
		シス	-6
		セソタ	105
	第2問	チツ	17
		テトナ	867
		ニ	3
		ヌ	3
		ネノ	90
		ハ	2
		ヒ	4
		フ	2
		ヘ	3
		ホ	2
	第3問	あ	2
		い	3
		う	4
		え	4
		お	3
		か	4
		き	3
		く	2
		け	3
		こさ	12
		し	3
		す	6
		せ	2

[解説]

英語〔基礎評価型〕

英語①

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「ルース・ベイダー・ギンズバーグについて」。

(1)は文脈を把握して空所を補う問題。空所の前では、ルースの両親が大学へは行かなかったことが述べられ、空所のあとでは、その両親が教育の重要性を理解し、ルースにできるだけ学ぶよう励ましたという内容が述べられている。これらから、逆接のButが適していると判断する。

(2)・(3)は本文中の語の意味を問う問題。前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。

(4)は本文の内容一致問題が3問。指定された段落から選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。1. はすべての選択肢にnameが含まれていることから、第2段落第2文の内容と照らし合わせる。

(5)も本文の内容一致問題で、こちらは4問。(4)は段落が指定されているのに対して、(5)は文章全体について問われている。それぞれの設問や選択肢で与えられている英文をもとに、キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、適切な選択肢を選ぶ。1. は第4段落第1文、2. は第5段落第3文、3. は第5段落第4文、4. は第5段落第3文および最終段落第1文と照合する。

II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) refrain from ~ingで「～することを控える」の意。
- (2) 自分の兄〔弟〕の娘なので、niece「姪」が適切。兄弟姉妹の息子はnephew「甥」。
- (3) come up to ~で「(基準・期待)に添う」の意。
- (4) 〈let + O + 原形不定詞〉で「Oが～することを許す」の意。原形不定詞goが使われているので、permitは不可。
- (5) the last ~で「最も…(しそう)でない～」の意。I had expected ~以下はthe last personを修飾する節。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) My elder sister (insisted on my taking care of her three) cats.
- (2) There (seems to be something wrong with this machine).
- (3) The judge (interpreted the law as prohibiting people from owning) guns.
- (4) This (new computer has three times as much memory) as my old one.
- (5) He (was counting on receiving that payment a week) earlier.

英語②

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「映画と其中で使われる音の関係」。

(1)～(3)は文脈を把握して空所を補う問題。(1)・(2)共に空所の前後で逆接的な内容が述べられている。したがって、(1)はhowever「しかしながら」が適切。(2)はbut「しかし」が適切。(3)空所を含む副詞節で、映画撮影の際にセットやステージにマイクがあるということが述べられ、主節で、それらのマイクでは必要な音をすべて録音することはできないと続く。Even though「～にもかかわらず」が適切。

(4)・(5)は本文中の語句の意味を問う問題。類義語の知識に加え、前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。

(6)は本文中の語句の説明としてふさわしくない選択肢を選ぶ問題。下線部を含む段落の内容と照合する。

(7)は映画の歴史の時系列を問う問題。年号や時を表す語句と、起きたできごとを整理しながら、本文を読み進める必要がある。

(8)・(9)は本文の内容一致問題。(8)は与えられた文の空所にあてはまるものを選ぶ問題(2問)。(9)は本文の内容と合致しないものを選ぶ問題(1問)。(8)は段落が指定されているので、その段落から選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。(9)は選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) be grateful to A for Bで「AにBに対して感謝する」の意。ここではbe動詞の代わりにfeelが使われている。
- (2) if節が仮定法過去完了、主節が仮定法過去の文。主節は〈主語 + 助動詞の過去形(wouldなど) + 動詞の原形〉にする。
- (3) despiteは前置詞で「～にもかかわらず」の意。コンマの前後の内容から判断する。
- (4) 〈find + O + C〉で「OがCであるとわかる」の意。「観客たち(=O)」が「興奮している(=C)」なので、excitedが適切。
- (5) 〈S + think + O + C〉の文。ここでは、itを形式目的語として置く。真目的語はthat以下。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) We were (wearing warm clothes so that we would not) catch a cold.
- (2) Flying (cars give you the freedom to go wherever) you want.
- (3) A person (with common sense would realize how wrong it) is.
- (4) The doctor was (convinced that the patient was infected with bird) flu.
- (5) She (thanked me for providing her with the money) she needed for her trip.

英語〔総合評価型〕

英語①

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「アフリカにおけるゾウと人の関わり」。

(1)～(5)は文脈を把握して空所を補う問題。(1)直前の文で多くがそれら(＝ゾウ)を恐れていることが述べられている。そうしたゾウを pests「有害な動物」とみなしている、とすれば文脈に合う。(2)接続詞がないこと、また、threatenが「～を脅す」の意で、空所のあとにbyが続いていることから、受動態の分詞構文になるThreatenedが適する。(3)ボツワナには他国よりも多くのゾウがいるという内容から、home「家」が適する。(4)人間の耕作地域やゾウなどの動物の居住域をdetermine「決定する」ために、ゾウの行動情報が使われた、とする。(5)空所の前後の文の内容から、In this way「このようにして」が適する。

(6)・(7)は本文中の語句の意味を問う問題。(6)子どもたちのゾウに対する考え方の変化から、Sehularoの考えや行動の意味を推察し、それにあてはまらないものを選ぶ。(7)直前の文で、物事がよくなる唯一の方法は人々が関心を持つことだという内容が述べられているので、その部分を参照し選択肢を判断する。

(8)・(9)は本文の内容一致問題。選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

(10)は問題文のタイトルをつける問題。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。正解は④。問題文で述べられている内容であっても、全体のテーマを示していないものはタイトルとしてふさわしくない。

II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) adviceは不可算名詞。複数形はなく、anはつかない。
- (2) beyondは「(限界・能力)を越えて」の意。
- (3) 関係代名詞whichの非制限用法。直前の文の内容全体を先行詞としている。
- (4) 前に挙げた2つの都市の「どちらも好きではない」という意味にする。not～eitherとなるeitherが適切。
- (5) this morning「今朝」という過去において「～であったらなあ」という願望を表すので、仮定法過去完了が適切。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) My brother (took his job for granted until he lost) it.
- (2) A moment's (thought will tell you that she is not) a liar.
- (3) I disapprove (of him making private calls on this phone) while at work.
- (4) The smaller a room is, (the less it will cost us to heat) it.
- (5) If (it had not been for your kind assistance), the whole plan might have blown up.

英語②

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「屋内で行われるゲームについて」。

(1)・(2)・(4)は文脈を把握して空所を補う問題。(1)the number of～を入れ、「黒が表と白が表の棒の数が～を決めていた」とする。(2)空所を含む文のbutより前に、クイーンの駒がweakest pieceであったとあることから、空所にはその逆のstrongest「最も強い」が適する。(4)空所までは中国で生まれたカードゲームの歴史について述べられ、空所のあとでは、同じ中国で生まれたドミノについて述べられている。したがって、Similarly「同様に」が適する。

(3)は本文中の語の意味を問う問題。類義語の知識や文脈から意味を推測する能力が問われている。

(5)は本文の内容一致問題が3問。指定された段落から選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。

(6)は本文で言及されたゲームの年代を古い順に並べる問題。Senet、Go、chessの年代が言及されている箇所を探し出す。西暦や時を表す表現に注意する。

(7)は本文の内容一致問題が1問と問題文のタイトルをつける問題が1問。1. は選択肢のキーワードが該当する部分を探し、一致するかどうかを判断する。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。

II

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) 〈get + O + 過去分詞〉で「Oを～してもらう」の意。
- (2) much less～は前述の否定的内容を受けて、「まして～でない、なおさら～でない」という意味を表す。
- (3) would rather「(むしろ)～したい」の否定形は、would rather not～。notの位置に注意すること。
- (4) shouldを使った仮定法。ifが省略され、倒置されている。
- (5) 「～のほとんど」は〈most of the[one's, thisなど] + 名詞〉で表す。almostは副詞であることに注意。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) Yesterday I (ran into Hamada for the first time in) five years.
- (2) This faded picture (never fails to remind me of my old) house.
- (3) Everyone knows that he would (be the last person to speak ill of) others.
- (4) Linda (apologized to Bill for blaming the accident on) him.
- (5) The government should (impose restrictions on companies to prevent them from) moving overseas.